

4月14日発生の「熊本地震」に関する太陽光発電設備への注意喚起とお願い

4月14日（木）21時半頃に発生しました熊本での地震の被災者の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

ご自身の安全を確保された上で今すぐに対応しなければならないことがあります。それは、太陽光発電の安全確保と、太陽光発電システムの被災直後の状況写真の撮影です。

太陽光発電は2012年に導入されたFIT制度により急激に普及しました。特に九州は日射条件がよいこともあり、その普及状況は全国平均の20%近く上回っています。そしてメガソーラーや10kW以上の中規模の太陽光発電は、山林地帯にまで設置が進んでおり、その大半が設置されてまだ1、2年という状況です。

東日本大震災以降、一気に普及が進んだ太陽光発電にとって、これほどの大きな地震は初めての経験です。当然、大きな地震に耐えるものとして設計・施工が行われているはずですが、横ずれ型の震度7の地震に対する耐震性については、今後のためにも検証する必要があります。

さらに緊急を要するのは、被災した太陽光発電による漏電や火災への対応です。太陽光パネルは太陽の光が少しでも当たれば発電し続けます。また、被災で断線したケーブルの先端には数百ボルトの電気が流れており、直接接触と感電します。

16日夜から17日にかけて、熊本県内は荒れた天気になると報じられています。パネルが雨にさらされると感電の範囲はさらに拡大する可能性があります。雨の間は発電しませんが、その後日射を浴びると、感電だけでなく火災の危険性も出てきます。野立でも住宅用も、その危険性は変わりませんが、住宅用の太陽光発電の場合、被災場所が人の生活圏である分、さらなる注意が必要です。

太陽光発電は、エネルギーの地産地消を可能としたり、個人でも電気を生み出せるという点で、大変有効な技術です。しかし文明の利器にもれず、最低の知識を持って使用しないと凶器にもなります。市民が有効に健全に使いこなすかどうか、この技術のポイントでしょう。

最後に、被災地の方々にはお願いです。太陽光発電の安全確保についての検証のため、太陽光発電の被災状況のわかる写真を、その時の状況説明と併せて、太陽光発電所ネットワークまでお送りください。撮影の際には、建物の倒壊や地盤の崩壊、感電に十分注意しつつ、危険な場所には近づかないようお願いいたします。

【送付先】

特定非営利活動法人太陽光発電所ネットワーク
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-10 湯島ビル 602
Email : info@greenenergy.jp
TEL : 03-5805-3577 FAX : 03-5805-3588
HP : <http://www.greenenergy.jp/>